



創立139年

鳳祭

写真特集

11/1~4



ホームカミングデー

書の魅力語る

仲川名譽教授が講演

芸術としての書を、制作と学術の両面で探究する仲川恭司名譽教授がホームカミングデーのトップで講演、本学での研究・教育活動や書の魅力を語った。

仲川名譽教授は、文学部教授として34年間、学生の指導と研究に打ち込んだ。2016年に定年退職後は、毎日書道展で最高賞の文部科学大臣賞、また個展の開催で毎日芸術賞を受賞した。毎日書道会理事、独立書人団理事長の要職を担うほか国連教育科学文化機関(ユネスコ)の無形文化遺産に日本書道文化を推進する協議会委員を務めるなど、書の普及にも尽力している。

世界に通じる書を広め、本学の文学部教授も務めた

手島右卿氏に師事した。書は教えられるものではなく盗むものだと言った。学生が勉強に対する姿勢も同じ」と語った。また「少字数書」に挑んだのは高校時代、「書」といえば漢詩を書くのがほとんどで、母に漢詩を見せるとほめてくれるが『なんとも読むの?』と聞かれる。もっと字数が少なく、分かりやすい作品が書けないかと思ったと振り返った。師が推進した「少字数書」をより新しい世界へ再構築しようとする意欲を語った。

教員になって間もなく、生田キャンパス旧2号館に、初めて本格的な書道室が設けられた。「他大学の書道室などを参考に、日本一のものを作りたい」と思った。完成した書道室は生田緑地に近く、自然豊かな中で十分に授業を行い、筆を執った。東日本大震災の影響により、9号館に環境で書生たちは常に良い環境で書に取り組んでほしいと願っている。専大の書道室は今でも夢に出てくるほど身近なものだと笑顔で語った。

最後に好きな言葉として「人生は未体験への挑戦」を披露して講演を終えた。

(9面に関連記事)



多彩なイベントで校友を歓迎



武田教授×長野智子さん 「報道とは伝える側の信念」

文学部ジャーナリズム学科開設を記念して、特任教授に就任する武田智子さんと文学部の武田徹教授の対談が行われた。写真。

長野さんはフジテレビアナウンサーからアメリカ留学を経て、現在は「サンデーモーニング」テレビ朝日のメインキャスターを務める。バラエティ時代取材現場でのエピソード、調査報道への思いを明瞭な語り口で披露。2019年9

「日本も世界も、黒か白かという対立の議論ばかりになっているが、本当に大事なことは、もっと複雑な判断が難しいのではないかと」「こうして議論を深めていけるような授業の取り組み」とジャーナリズム学科特任教授就任の抱負を語った。



月10日の米岡時多発テロ直後、パレスチナから伝えたときに、報道とは伝える側の信念だと強く感じた」と原点を語った。

また、長野さんはネットメディア「ハフポスト」日本版の編集主幹も務めており、テレビの報道ではできないこともネットではできる。受け手の側もどちらかを否定する

文学部ジャーナリズム学科開設記念対談